2020年度 事業報告書

特定非営利活動法人ワークレッシュ

Ⅰ 事業期間

令和2(2020)年４月１日～令和3(2021)年３月31日【第19期】

Ⅱ 事業の実施状況

１ 特定非営利活動に係る事業

（1）【事 業 名】～子どものためのコミュニティ･スペース～ワークレッシュ

【実施場所】大野台7丁目18番3号（2020年４月12日迄、大阪狭山市茱萸木６丁目985-1 旧つどいの広場ファンズガーデン内）

【実施日数】235日（会員限定企画等実施日含む）

【利用人数】延べ814名

（前年度比2,219名減、73.2%減）

【対 象 者】生後４か月以上の利用会員家庭の児童

（会員外の一時保育の受入れは廃止）・

乳幼児の１日利用定員５名

【方 針】

日中から夜間までの間や学校の長期休業日に、保護者が就労、育児･介護、疾病等により、子どもを保育することが出来ない場合などに、子どもたちに、遊びと学習環境、安全で自立的な暮らしの場を提供する。

また、子どものためのコミュニティ･スペースとして、レクリエーションや学習、生活全般を通して、子ども同士、関わる人たちとのコミュニケーションの機会を提供する。

子ども･保護者からの種々の相談に応じる。さらに、地域活動に積極的に参加し、会員相互のみならず地域との交流を促し、地域福祉力の増進に寄与する。

◆自主事業

「CS部門報告書」に別記

◆出張保育　依頼・実績なし

◆地域イベントへの参加　各企画は感染症予防・拡大防止のため中止

◆学習会企画・講師派遣 他

● こそアドさろん～復活！大人の覆面座談会～
１０月３１日（土）13:30-15:30　参加者４名

【収　入】 3,501,631 円　（前年度＜一時預かり事業含む＞ 9,748,686 円）
【支　出】 6,651,356 円　（前年度＜一時預かり事業含む＞10,596,111 円）

(2)【事 業 名】児童発達支援･放課後等デイサービスフェイス

【実施場所】大阪狭山市大野台７丁目１８番３号
【実施日数】285 日（休日：日曜、国民の祝日に関する法律に規定する休日、8/12～8/17、9/5、12/29～翌年 1/4、3/31）
【開設時間】平日：12 時 30 分から 18 時 30 分
土曜・長期休暇中：10 時から１８時
[保育所等訪問支援：火～金１０時から１２時]
【対　　象】（2021 年３月末現在）３歳～１８歳の児童　２１名
【利用人数】延べ 2,615 名（契約 23 名うち未就学児２名/20 家庭）
１日 平均 9.2 名（定員 10 名・欠席加算含まず、新型コロナウイルス特例による請求 50 件含む）
【目　　的】障害のある学齢期の児童の健全な育成を支えるため、身体及び精神・環境に応じて、日常生活における基本的動作や知識技能の習得、並びに集団生活に適応するための指導訓練等を提供し、生活能力の向上と地域社会との交流を図る。
【内　　容】子どもの発達過程や特性、適応行動の状況を了解した上で、一人ひとりの置かれている状況や願いに即した個別支援計画を作成し、発達支援等を行った。
下記の２）基本活動以下の活動を複数組み合わせて日常のスケジュールを構成し、１日 30 分の集団療育プログラム（パーソナル・アクティビティ）を毎日実施した。

■児童発達支援・放課後等デイサービス

１）個別支援計画の作成
全児童について年間で２通作成し、下記の具体的支援を進めた。

２）基本活動

ア　自立支援と日常生活の充実のための活動

[持ち物管理・手洗いうがい・身支度・身だしなみ・身体の清潔・外食・入浴/食事マナー・買物・掃除・健康管理（柔軟体操・ストレッチ・筋トレ・竹踏み・ウォーキング）・身体/体力測定・学習・カレ

ンダー作成・あいさつ・言葉遣い・送迎ルール・交通マナー・作物と生物の世話・個人のリクエストによる遊具や教材の導入・PC操作・個別支援計画に基づく外出や宿泊・懇談]

イ　集団生活の中で成功体験の積み増しを促し、自己肯定感を育む活動

[仲間を意識したルールのある遊び・チャレンジカードによる目標管理と自己評価・目標やコメントの発表・イベントの企画実施・終わりの会での一日の振り返り・子ども会議・子どもアンケート・お楽しみ運動会・避難訓練・自己防衛トレーニング・応急手当ワークショップ]

ウ　創作活動

[季節行事（秋祭り/ハロウィーン/忘年会/餅つき/謝恩会/卒業パーティー等）・裁縫（エコバッグ）・書道（絵馬）・絵画・リユース素材で工作（こま/フライングディスク/ビーズストラップ）・壁面装飾・自分たちの居場所作り・献立調理（収穫/仕入れ/おやつ作り・昼食作り）]

エ　余暇の提供

[自由時間の室内遊び（アナログゲーム・コミュニケーションゲーム）、屋外遊び（ジョギング・サッカー・野球・ドッヂビー）、ハイキング/外出（ロケット公園・天野街道散策・狭山池博物館・副池散策・東大池公園）、映画鑑賞、外食・喫茶懇談、個別の休息時間と場所の確保]

3）学校・保護者・地域との連携

ア　将来の自立や地域生活を見据えた活動

[障害児通所部会研修の企画・他事業所訪問・保育所等訪問支援の活用・ケース会議への出席・他事業所の視察受入・保護者交流会・個人懇談・保護者Webアンケート・活動拠点の引越し]

イ　地域交流の機会の提供

[おむすびパークス・初詣・保育部門との合同イベントや日常交流・地域探検・地域社会体験インターンシップの受入れ・近隣の就労継続支援事業所が運営する店舗へ・他事業所との交友等]

4）介護サービス　更衣、排泄等の身体介助

年齢に関わらず、可能な限り同性介助を行った。

5）送迎サービス　4,592 件（1 日平均 16.1 件）

事業所が所有または借用する車両により、利用者の自宅又は学校と事業

所の間の送迎を行った。専属ドライバーは登用せず、児童の直接支援に携わる指導員が運転手を兼任している。運転技能実習や運行時及び添乗中のルール・マナーの継承を行った。

6）給食サービス

希望により、身体状況や嗜好に配慮した食事を提供する。

■保育所等訪問支援

1）障害児本人に対する支援

月２回、登校サポートや授業観察

2）訪問先施設の保育士等に対する支援

報告書の提出、支援方法の共有

【収　入】30,735,446 円（V 評価益含む）
【支　出】27,268,459 円（V 評価費用含む）

(3)【事　業　名】みんながむすぶ、たそがれ時のコミュニティ・パークス

独立行政法人福祉医療機構　令和２年度社会福祉振興助成事業（地域連携活動支援事業）

【実施場所】大阪狭山市大野台7丁目18番3号
～子どものためのコミュニティ・スペース～ワークレッシュ
【実施日数】2020 年５月から 2021 年３月
毎月第２・第４（木）16 時～20 時（全 22 回）
【利用人数】延べ 161 名
【対　象　者】近隣の福祉サービス事業所の利用者、家族、児童、福祉事業者等
【内　　容】

申請当初は、月2回、夕刻から、地域の誰もが集える憩いの場と出会いの機会を開き、参加する地域住民や事業者らが協力して、夕食の提供と相談一次対応、生活サポートを行う、とした。事業計画を途中２回変更し、夕食会・憩いの間の運営を地域に PR した。当初は近隣の福祉事業所を借りて巡回実施する計画を変更し、1 カ所に固定。
事前予約制・少人数制とし、参加者の希望を調整して日時やメニューを設定した。食事・送迎は無料で、カンパを募った。

【収　入】1,258,717 円　（内 WAM 助成金 1,177,000 円）
【支　出】1,114,307 円　（返還申請概算額　76,000 円）

2 その他の事業　　実施せず

Ⅲ 事業の成果と課題

（１）～子どものためのコミュニティ・スペース～ワークレッシュ

なつまつりや地域のイベント（狭山池まつり・はばたきフェスタ・こどもまつり等）が中止となり、ここを目掛けてみんなで奮起！！ という大きな取組がなく、動きが鈍く、地域社会への感度も低くなっている。かといって、休業したままの移転、認可外保育施設への再度の転換、事務環境の変化により、日常を送ることに追われ気味で、コロナ禍においても、季節を感じる取組など、工夫して実践できることがあったのではないかと省みている。

顔を合わせてのスタッフ間の情報交換や共有の機会が減った。月例会議をもう１日設けるか、朝のミーティングをしっかりするのかなど、経営資源や時間の制約を守りながら、会議や打ち合わせ、効率の良い確認・連絡の仕方をもっと工夫していきたい。互いにじっくり話をする機会も不足したが、スタッフそれぞれの課題や思いを出して、先輩からアドバイスを受けて解決いけるような機会をつくっていきたい。

４月下旬の移転前に、創業以来初の休業を決断した。休業中に、移転と環境整備をおこない、認可外保育施設の届出に向けての料金体系の再構築、PR ツールの作成にも取り掛かった。再開後、徐々に出席数は回復するものの新規開拓はふるわず実績は停滞状態で、売上は前年度比３割弱と非常に低調であった。

２０２０年度を通して考え続けたのは、「私たちのつくるコミュニティ・スペースとは、何か。補助金・給付金無しの自由な地域福祉事業の担い手として、今、堅持すべきこととあわせて、地域コミュニティの親子に貢献できうることは何か」ということだった。日々の運営はまさしく一日一日を丁寧にふまえていくことに精一杯で、コロナ禍の子ども達への影響を思えば、早く必要なところに手を届けなくてはならない、このままではいけないと、NPO としての力不足を痛切に感じていた。そんな中、利用者の存在や訪問客の励まし、内外からの支援者のサポートは力強く、とても勇気づけられた。このような時期に厚く支持があることの意味も受け止め、今確かに在る関係性と価値、内外の貴重な資源を徹底的に大事にして堅固な運営に挑戦したい。

とはいえ、あらためて振り返ると、保育事業売上は全体の経常収益の８％（昨年度は１２％）、経常費用は１７％（昨年度は２０％）と相当な苦戦状況である。丁寧で誠実な保育とバックオフィス運営を追求し、保育人材や事務局の錬成と事務の効率化や質の向上を叶えながら、各種会員始め支持者との日常のコミュニケーションを大切にして協力を仰ぎつつ、2021 年中に運営の在り方を見定めていかなくてはならない。

（２）児童発達支援・放課後等デイサービスフェイス（Ⅲ 事業の成果と課題）

● 主要な療育の取組と成果

７期目は「役割」 ～ 自分のすべき役割を自覚し、担っていく ～

≪PA テーマ≫ 守る・仲間意識・創造

前年度末に子ども達の通う学校が一斉休校となり、新年度に入っても再開の見通しがなかなか示されないまま休校措置が継続された。不安で不安定な長い春休み、見通しや実感の薄い進級・進学を迎えた中で、４月半ばから活動拠点への引越しが始まった。見学、掃除、荷造り、運搬。新しい場所で、自分たちの居場所を設営していく。

広々とした場所から一軒家に移転してスペースが手狭になり、慣れず、自分の心地良い居場所が定まらず不安定になったり、感情を表に出して訴える子もいた。このことが、地域に出掛けるきっかけになった。すぐ近くにはあまの街道、公園がたくさんある。小さい子も、目的地まで自分の足で歩ける。地図を見て、目的地を見つけてどこに行くか決める。大人は、危機管理と環境設定をして出かけることに積極的にならざるを得なかった。大人も子どもも「一緒に成長する」ということを実感した。

感染症対策として「自分がすべきこと」、予防のための手洗いの励行、マスク着用、検温、身辺の清潔を保つことや手指消毒を意識した生活が始まった。５月下旬辺りから分散登校、６月中にはほぼ通常通りの登校になったが、学校によっては夏休みが短縮され、終業式や２学期の始業式が早まり、大変イレギュラーな予定であった。自分の予定をカレンダーに書いたり、家庭やフェイスで確認し合うなどして、今日と明日を追いかけるのに一所懸命だった。感染予防として利用を控えると決断する家庭もあり、共に過ごしてきた仲間と会えない、つどいにくい非日常は、今も続いている。実情としては、引越しを終え学校が再開してから、次々と課題が見つかった。子ども達の体力の低下や、やる気・元気・意欲の減退も顕著に見受けられた。集団生活を送る上での禁止事項や新ルールの多さにも、非常に苦戦した。総じて、我慢と工夫の１年だった。

その状況下で子ども達は、相談する・代弁する・人のことを認めて、相手を称えることができるようになっていった。仲間を心配し、慰める。励ましたり励まされたりする年長者。大きい子たちが自分たちの希望（例：ハロウィーンや秋まつり）を発動。スタッフに相談し、時間をかけて計画し、実行していく経過。また、ひとりで出来なくても、助けを求められる相棒がいる安心感。それらを憧れの眼差しで見て、感じている年少者。年長者は幼児の新入生を可愛いと思い、お世話しようと積極的に関わった。それも、かまうのではなく、手本となったり面倒を見るという感じ。「見て学ぶ」「見せて学ばせる」というような、二部構成の関係性になっていった。大人がいくら言っても通じないことが、年長の子が年少の子に言い聞かせてコトが進む場面が何度もあった。活きる上下関係、パワーバランスがとれてきている。

ハロウィーンは大人の楽しみ

「おいしいごはんつくってくれてありがとう」「今までありがとう」

2020 年度は、本当によく頑張った一年。コロナ禍や長引く休校、不便さや不安を共にし、長時間共に過ごしたおかげで、人を思いやる現場が培われていったのではないかと振り返って思い至る。早春、調理ボランティアの方のお別れ会を開いた際には、人に感謝するということを、子どもたちがこんなにもわかっているのだ、言葉で説明しなくても伝わっていたのだと知った。自分たちで、フェイスを「つくる・守る・育てる・大事に思う・大事にする」――そして、責任感という役割を果たしながら、自分たちの「らしさ」を形成中である。

この流れで行くと、今後は、協調や調和がキーワードになりそうだ。それから、自分の主張をするということ。「自分とはこういう人間だ」と自覚し、発言することを、高学年生たちは自分の目標にしていくのだろうか。大切にする・される経験を通して、自他を認め、相手を称えられる。また、相談し、調整・調節し、加減して、納得して可否を見定め、挑戦する。過去・現在・未来、家・本人・社会を見渡す視座を身に着けて、巣立っていく。大家族の中で、ひとりひとりの個人の内面に、たくさん

のテーマが宿り、芽生えている。

以下に、これまでの療育テーマと学びの歩みを記しておく。

第１期 2014 年度「自分を知る・お互いに知り合う」
日常の挨拶やマナー行動が定着していったことによって、自分や他人への関心や自覚の芽生え、コミュニケーションの広がりと深まりを生み出した。

第２期 2015 年度「自分の身体を扱えるようになる」
【遊びが学び】のコンセプトに沿った成果を獲得しつつある。集団の遊びを楽しみ、自分の気持ちを自覚し、表現出来るようになってきた。他者への関わり合いの力と意欲も発現。

第３期 2016 年度「衣食住に密着した暮らしの体験」
興味と役割を持って生活を楽しんで営めるように、仲間と、または一人で。暮らしがしごと・食べること・着ることにまつわる様々な所作を循環させ、生活力へと結んでいく。

第４期 2017 年度「食とコミュニケーション」「自分を知る・人に伝える」
色々なものを食べ、時に作り、新しい味を知りながら、言葉や行動を引き出す術とゆとりを持てるよう共にチャレンジした。支援される自分・支援される立場から、支え合い助け合う自分たちへ。

第５期 2018 年度「道具をつかう」
人と一緒に取り組むことや外出の機会を増やしながら、最大の道具である「言葉」でのコミュニケーション」を重視。希望をもった生活設計、喜怒哀楽の表現がより豊かになった。友だちとの輪、放課後の自由な遊び時間と放課後の集団を、子どもたち自身が獲得していった。

第６期 2019 年度「比べる」
決して優劣をつけるのではなく、自分と人との強みや違いを知ることで、視野を拡げ自意識を深めていく。感覚や好みの違い、喜び・悲しみ・心配・共感など様々な気持ちを感じ伝えて交わすことで、個々が主体となって意見・希望・不満を言える環境や関係性が築かれていった。

第７期 2020 年度「役割」

（Ⅲ 事業の成果と課題　（3）児童発達支援・放課後等デイサービスフェイス）

- 運営体制・周辺環境、次年度以降に向けて

＜大幅な減収、保育所等訪問支援の開設＞

2020 年 3 月初めからの学校休業中は、インフルエンザでの休校等と同じように、休業日の基本報酬単価が認められた。また、感染を懸念して欠席する利用者には、代替的な支援（在宅支援）を行うことで出席と同じ報酬の請求が認められることになった。ある児童は、平常時月 20 日程度利用のところ、4 日間程の出席扱いとなった。他数名の感染症予防理由の欠席もあわせると、「コロナ」による利用減少は 130 件以上か。2019 年度に比べ、ちょうど 300 万の減収。2018 年から 2019 年は 285 万減収。2021 年度の予算は、運営を継続するために最低限必要な目標値である。コロナ禍の影響に甘んじず、この背水の陣に接し、経営の改善を急がねばならない。

とはいえ、PR や地域との連携を含め、内外の諸活動を制限せざるを得ない情況の中、砦に籠城するような心理的閉塞感は続いた。とりわけ、保育所等訪問支援を開設

したものの、学校・園の授業参観や懇談さえ延期や取りやめになる中を縫っての利用者の新規開拓は、下半期に入っても格段に進めにくいものだった。しかし、実績は少数ながら、やりがいと手応えは大いにあり、多方面の潜在的ニーズを実感している。また、本人を中心とした信頼ベースの家庭・学校との連携や伝達については、さらなる歩み寄りと経験を重ね、支援の一翼をしっかりと担っていきたい。

＜新規人材登用、利用者募集に際して＞

日常の「児発・放デイ」は、出席数が減ろうと施設がコンパクトになろうと業務量は変わらず、むしろ新しいルーティンワークや業務の品質を高める必然性も増し、担い手のマンパワー不足は否めなかった。「保育士募集」には、民間の有料求人広告も活用したが、反応は極めて薄かった。専門職の登用は急務であるが、他 NPO や家族、保護者層からボランティアとして業務参画や行事への参加協力を得られるなど、共にエコロジカルな力の循環を築けていることは、大いに自負できるところと言える。もう‘コロナ’を言い訳にはしない。保育士募集の継続と合わせ、2021 年度からは、現利用家庭のご紹介も頼りにしつつ、地域での出会いの場を切り拓き、利用者層を含めた地域の人々と新しく知り合うきっかけづくりを積極的に行なっていく。

それに先駆けて、年度末には、今一度「支援」とは何かを自らに問い直し、各活動の意味・目的や担い手の役割、或いは禁止事項を抽出し合って、仮称「スタッフガイド」の策定を始めている。創業メンバーが築いてきた信頼関係とマネジメント力、現場運営における絶妙の阿吽の呼吸と不文律の文化は、来訪者や新しい従業者には分かりにくいだろう。見学者や新人スタッフの導入時の必須ツールとして、また、自分たちのためにも整備していく。日々の現場には、オリエンテーションと OJT だけでは満たせない知見、きめ細やかで重層的な配慮、咄嗟の機転も要る。そして、「スタッフガイド」の一旦の完成を待って検証を終了したり、権威ある教典のようにしないことだ。完成形は無く、常にアタマを打ち続けるものと心して努めたい。

移転を機に「しおり」を改訂し、また法人の HP の新調に伴い、改めて自己取材する機会もあり、児童・家庭双方から協力を得られた。また、ブログを定期的に投稿するようにして、「フェイスの中身」についての発信を強化している。ところが、フェイスのような地域福祉事業型 NPO が一軒家で担う放課後等デイサービスが、福祉「サービス」に傾倒する市場や顧客ニーズにおいては、（今風ではない独特さや泥臭さは良いとしても、）新しいものを受け入れない閉鎖的で排他的なイメージを醸し、感じさせているのとしたら、全く本意ではない。この点を見直して改善し、さらに自己開示していかなくてはならないと思う。

＜研修・連携・発信の必要＞

上記の意味でも、常に研修・研鑽の必要を感じていながら、オンラインではない研修、他事業所との学習と交流の機会が極端に少なくなったことは、ここに関与する

人々の力を停滞させ、業務の視野狭窄や自己欺瞞に陥り、コミュニティの力を減退させることにつながってくる。日頃から、社会に目を開き、地域に出掛けることを意識して自ら行動し、人と出会い、学び直し、「支援」だけでなく、働き方・生き様についての視座を増やしていきたい。

苦しい中、これまでと変わらぬ関係があり、少数でも新たな出会いや再会の機会を得られたことは、法人の根幹を支える力となった。休校・休業対応についても、近隣事業所との連携・協調ムードが醸成されていることも心強い。

地域の中の一軒家を拠点につどう多様多彩な子ども達の姿は、フェイスとコミュニティの象徴となっている。いよいよ、放課後等デイサービスは「再編」の動きが表に出てきた。国の制度設計や方針の変更を待たず、生き残りを懸けて道を開き、フェイスの子ども達の存在と、この仕事の存在価値を追求し、積極的に強かに愉しく発信していきたい。

（３）みんながむすぶ、たそがれ時のコミュニティ・パークス（Ⅲ 事業の成果と課題）

独立行政法人福祉医療機構　令和２年度社会福祉振興助成事業＜地域連携活動支援事業＞

緊急事態宣言やその後の自粛ムードが長く続き、また繰り返したこともあり、強く参加を促進したり広く PR しかねる状況であった。チラシのポスティングや折込み、近隣を訪問し、ブログでも呼び掛けたが、参加したいという連絡や反応は少なかった。ボランティアグループや福祉事業者や地域の方は、食事ではなく、見学として来られたり、電話で情報共有したりすることが月２～３回あった。

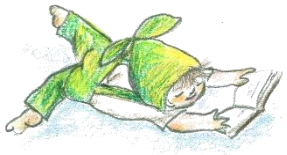
本当に困っている人や子どもに届いていないではないか、また、出会っていても、痒い・痛いところに手が届いていないのではないか（でも自分たちも結構苦しい）というように、無力感が強い時期が長らくあった。しかし、いつか参加したい、関心がある、手伝いたいなど、参加者や家族からだけでない問合せなどを複数得られた。新たな大きい社会不安で動きのとりにくい中でも、つながりや楽しみを得るだけでなく、自分も役割をもちたい・担い手側になりたいという人たちとの出会いの数々は、意外な収穫だった。

参加される方やそのご家族、支援者とは、今後も制度外の関わりや地域でのお付き合い、連携が続けられそうだ。食事提供にこだわらず、個々のニーズをとらえていくことで、学習支援や喫茶、余暇を共に過ごせる場や関係を続けていきたい。当初計画していたような事業展開や協力体制がとれなかった代わりに、個人・団体共にボランティアや福祉事業所の職員らとの市民的なつながりはかえって養われたと実感している。

しかしながら、今後、助成金や法人の事業収益を充当することが出来ず助成金もない中で継続して運営していくには、ボラ

ンティアが腕をふるっての料理提供は難しい。また、本事業では、仕入れから清掃まで担当者以外の協力が大きかった。広く PR しにくい状況は続くだろうが、クローズドな家族的関係や一時的居場所こそを必要とする人は、すぐ近くにもまだおられるはず。基本的な感染対策強化し意識を高めつつ、少人数の受入れを継続する。

また、宿題カフェや自習スペースとして、福祉事業者やボランティア団体だけでなく、地域の子どもたちにもアプローチしていきたい。ニーズがあることは分かっている。いずれにしても、マンパワーと資金が必要。有償ボランティアとしての活動協力を依頼したい。



Ⅳ 理事会その他会議の開催状況

- 理事会

・10 月 28 日(水)　16時 00 分～18時30 分

於）A′ワーク創造館（大阪市浪速区木津川）

上半期人事考課・賞与、健康増進手当の導入について他

- 第18回通常総会

2020 年6月23日（火）

11 時 15 分～12 時 15 分

於）朝日屋　割烹高野２階

正会員総数 12名

（本人出席９名・委任状出席３名）

<議事>

1）出席確認、議長選出

2）第 1 号議案：第 18 期事業報告（2019 年度）

3）第 2 号議案：第 18 期収支決算報告（2019 年度）

4）第 3 号議案：第 19 期事業計画（2020 年度）

5）第 4 号議案：第 19 期収支予算（2020 年度）

6）第 5 号議案：議事録署名人の選任に関する事項

- 臨時総会

・2020 年 9 月 17 日（木）13 時 00 分～14 時 00 分

於）ワークレッシュ 1 階　和室

<議事> 長期借入金の算入

2020 年度修正予算

・2021 年 3 月 29 日（月）

於）チャットワーク【2020 年度臨時総会】グループ

<議事>　長期借入金の算入

組織体制の再構築と運営基盤の強化策について

● 全体会議、職員研修等

【全体会議・全体研修】

・9月3日（木）12時30分開始　[初 Zoom 会議]
　防災・防犯マニュアルの改訂、実践練習
　おむすびパークス（WAM 助成金事業）計画の転換

・10月9日（金）10時15分開場～12時30分退場
　於）大阪狭山市立コミュニティセンター音楽室
　仕事のやりがい・苦労話
　虐待防止委員会より伝達研修、障害者虐待防止について
　賛助会員・寄付状況

・10月30日（金）10時30分～12時15分
　於）ワークレッシュ1階居間
　上半期の総評と今年度のこれから
　災害時の避難、備蓄について
　感染症対策
　通報訓練

・12月3日（木）13時00分～14時30分　於）ワークレッシュ 和室
　保育中や保護者対応場面における危機管理と支援についての
　ロールプレイ研修①

・12月11日（金）10時45分～12時15分　於）ワークレッシュ 和室
　保育中や保護者対応場面における危機管理と支援についての
　ロールプレイ研修②

・12月19日（土）19時00分開場～21時00分終了
　於）ワークレッシュ1階 居間
　能の鑑賞「道成寺」DVD 鑑賞

【その他】～ChatWork 始め Zoom,YouTube にも大変お世話になりました～

この他、従業者全員が所属するチャットワークの【研修】で、大阪府人権協会の人権を語るリレーエッセイ・NHK 等のテレビ番組・ウェブ上の文書・新聞雑誌の記事・研修動画等を紹介し、人権や差別問題、障害児通所支援事業の制度や課題について周知、学習教材や検討資料とした。感染症対策の一環でオンライン会議や動画研修が増発したことにより、自宅や仕事場にいながら研修を受講することが可能となった。

また、新たに【感染症予防本部】【防犯＆災害対策本部】【ヒヤリハット報告、事故対応マニュアル】を全員で編成し、会議や連絡にかかる時間とエネルギーの省資源化と、統一した情報発信や迅速な伝達が可能になり、対面での会議・研修時には、模擬体験（実践練習）や操作・実践のトレーニングを補強することが出来た。組織内でオンライン会議を執ることは出来るだけ控え、少人数・短時間のセクション毎・勤務日毎の対面での直接伝達を重んじ、その内容やメンバーに偏重が生じたり、時機に遅延のないよう留意した。

【職員研修旅行】

パラリンピック観戦や首都圏の事業所訪問を具体的に計画していたが、オリンピック・パラリンピックが開催延期となったため、数人ずつのグループに分かれ、遠足の下見を兼ねて日帰りで実施した。

2020 年９月５日（土）

◆チーム「ニフレルズ」

大阪府吹田市　万博記念公園内「生きているミュージアム　ニフレル」
「太陽の塔」　「国立民族学博物館」

◆チーム「食いしんボーズ」

兵庫県神戸市「しあわせの村」

◆チーム「アニマルズ」

兵庫県神戸市「神戸どうぶつ王国」「南京町商店街」

【2020 年度 会員数】

正会員 12 名

賛助会員 97 名

寄付者 29 名（賛助会員と重複あり）

「ワークレッシュの歌が出来ましたよ２」

https://bit.ly/3go8YFT

https://www.youtube.com/watch?v=cRMcEmKPtKA&list=PLVze0m7TBO7zXqKtUL9W7zLJ1mPT-Gy60

作：よっちゃんと「元祖利用会員」たかみっちゃん

≪別紙≫ 資料「事務局業務年表 2020」

以　上